

知っておきたい福祉の制度～介護保険～

医療連携・患者支援センター ソーシャルワーカー 鈴木 恵子

介護保険制度は、65歳以上の高齢者や、40～64歳で下記の16特定疾患により介護を必要としている人を対象とし、身近な介護サービス体制の要となっています。

16の特定疾患

- ①筋萎縮性側索硬化症 ②後縦靭帯骨化症 ③骨折を伴う骨粗鬆症 ④早老症 ⑤多系統萎縮症
- ⑥初老期における認知症 ⑦脊髄小脳変性症 ⑧脊柱管狭窄症
- ⑨糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症 ⑩脳血管疾患 ⑪パーキンソン病関連疾患
- ⑫閉塞性動脈硬化症 ⑬関節リウマチ ⑭慢性閉塞性肺疾患
- ⑮両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変形性関節症 ⑯がん末期

申請に関しては、65歳以上の方は介護保険被保険者証を、40歳以上の方で上記特定疾患の治療中の方は健康保険被保険者証を持参し、お住まいの市役所・区役所等の介護保険担当窓口で手続きを行います。

役所へ出向くのが大変な時は、各地に地域包括支援センターという相談機関がありますので、こちらへ相談し介護保険要介護認定の代理申請を依頼することもできます。

サービスの具体的な内容の一部は次のとおりです。ご利用を考えたい時は、要介護認定を受けてから、地域の事業所のケアマネジャーにプランを立ててもらいましょう。

サービスの例	サービスの内容
訪問ヘルパー	買物や調理、居室の清掃やシーツ類の洗濯、入浴時の手伝いや排泄ケア
訪問看護	疾患等を抱えている方の療養上の世話や診療の補助など看護ケア
訪問リハビリ	自宅での日常の動作訓練
通所介護・リハビリ	歩行・筋力トレーニング、レクリエーション活動参加による日常生活の活性化
ショートステイ	介護施設等への短期入所

外来受診のご案内

■受付時間

初診 8:30～11:00 再診 8:30～11:30

※一部診療科では午後の受付となる場合があります

■休診日

日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日（6月10日）

年末年始（12月29日～1月3日）

■代表電話番号 043-462-8811

予約変更専用 043-462-0489（平日14時～16時）

■健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証

（原本）を必ずご持参下さい。

■各科外来担当医はホームページ

<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

編集後記

猛暑の夏が終わって急に寒くなり、一気に秋の気配が感じられるようになりました。あんなに暑くてぐったりしていたのに、去ると恋しいものです。

今年の夏はインドに旅行に行きました。連日40℃を越え、クーラーに慣れた体にはしんどかったのですが、タージマハルの美しさは圧巻でした。これからインドも涼しくなります。冬のご旅行に一押しです。（高橋）

SAKURAdayori

東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

「心によりそう看護」

看護担当副院長 寺口 恵子



『心によりそう看護』は東邦大学3病院（佐倉・大森・大橋）の看護理念です。その理念を受け、佐倉病院看護部は「生命尊重と人間愛を基本とし、やすらぎと心のかようあたたかい看護を提供します」を看護理念とし、看護師一人ひとりが「心のかようあたたかい看護を提供したい」「ひとつひとつの出会いを大切にしたい」「あなたに会えて良かったと言われたい」「かけがえのない生命（いのち）を守り続けたい」と願い、看護の専門性を發揮し、医師・他職種と連携して日々看護を提供しています。

当院の看護部の特徴として、外来と病棟を一看護単位としたユニット制を導入し、患者さんが外来から入院、入院から外来（在宅）へと移行されても継続した看護を提供できるよう体制を整えています。また、看護相談室を設置し、地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護サービス事業所などとの連携を密にして、患者さんが安心して退院できるよう看護師による退院支援を実施しています。更に、皮膚・排泄ケア、感染管理、糖尿病看護、がん性疼痛看護、新生児集中ケア、救急看護、がん化学療法看護、緩和ケア、不妊症看護等多くの認定看護師がその専門性を發揮し、活躍しています。

看護師の教育には、クリニカルラダー（臨床実践能力評価）を導入し、「看護が楽しくなる、看護を変える研修」を実施し、専門職業人としての成長を支援しています。また、新人看護師に対しては「看護師として仕事をしていける」という自信が持てるようブリセプターシップ・メンタルヘルスサポート・技術演習等新人教育担当責任者が中心になって、配属部署の全スタッフで支援する新人サポートシステムを導入しており、平成20・21年度厚生労働省の「新人看護師臨床実践能力向上推進事業実施施設」となっています。

看護師たちは看護の専門家として患者さんが安全・安楽に療養生活を送って頂けるよう研鑽し、自らも明るく楽しくチャレンジの精神で看護（医療）を提供しています。

現状に流されることなく、自分で考える習慣を持ち、積極的に行動に移す。また、患者さんに対しては、あたたかく思いやりと癒しの心を持って接する。このことが一人ひとりの看護行為に表れ、日常業務に活かされているのが当院の看護部です。

市民公開講座のご案内

“肝臓”をテーマに消化器内科・放射線科主催の公開講座を開催しました。

さる9月25日の公開講座は土曜日の好天気にもかかわらず、100名近くの方々にご出席頂きました。消化器内科の高田伸夫先生が「慢性肝炎(B型・C型)と肝硬変の治療」を、放射線科の森田英夫先生が「肝細胞癌の画像診断と治療」を紹介、解説致しました。



高田伸夫先生 森田英夫先生 病気で、社会問題にもなっています。出来るだけ早期に発見し治療することが大切で、肝硬変、肝癌に進行させないために抗ウイルス療法などが行われています。残った肝臓の細胞を長持ちさせるために栄養療法の重要性も注目されています。また、肝硬変になってしまった時の合併症には個々の病態に応じた治療戦略を立てることが必要です。病初期から個人ごとで病態・進行具合が違っており、その人にあった治療を選ぶためには専門医に相談することが望ましいと考えられます。

肝癌についても他臓器と同様、早期発見・早期治療が必要ですが、そこで放射線科が活躍致します。内科と連携して、種々の画像検査を駆使して診断し、血管内治療、画像支援下低侵襲治療(IVRやカテーテル治療とも呼ばれています)を積極的に行っています。IVR学会専門医認定施設であり、当院の特色の一つです。画像診断と治療の特徴について解説するとともに、当日は実際に使用するカテーテルを皆

様に見て頂きました。

今回の公開講座を開催して、演者の先生方は次のように感想を述べておりました。

講演の合間、室内を見渡し、出席された皆様の表情を良く観察させて頂きましたが、一人の例外もなく真剣に私たちの話に聞き入っておられました。知りたい、学びたいという意欲は、医療従事者や医学生よりも上回っている感じられました。おそらくあの場にいたスタッフの誰もがそう感じたのではないでしょうか。このような方々に対して講演させて頂くことは、私たちにとって大変光栄なことであります。肝疾患の治療という内容を短い時間でご理解頂くには限界もあります。高度すぎれば難しくなりますが、平易にしても逆に密度が薄くなります。最初の一歩を踏み出し、もう一度聞きたい、この病院で診てもらいたい、という気持ちになって頂き、次へまた次へと続くことが最も重要と考え、今も診療を行っております。近い将来には、さらにテラーメイド化した治療が期待できます。参加された皆様には最後まで熱心に聞いてくださり大変感謝しています。何かの折りにはお気軽に御相談くださいと存じます。(高田・森田)

当院では皆様の声を大切に、お互いの理解のため、より良い診療を行うために市民公開講座を充実させていきます。

どうか気楽にお越し下さり、要望をお伝え下されば幸いです。



市民公開講座のお知らせ(入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
11月13日(土)	認知症と共に歩む～“診断と治療”	神経内科・脳神経外科他
12月25日(土)	高血圧・大動脈ステントグラフト	循環器センター
1月22日(土)	体にやさしい手術法 腹腔鏡下手術／血管内カテーテル手術	外科・放射線科
2月26日(土)	怖いめまい・怖くないめまい 睡眠障害と改善方法	耳鼻咽喉科・メンタルヘルス
3月26日(土)	肺癌の治療	呼吸器内科・外科

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。

いずれの講座も14時から当院東棟7階講堂で開催する予定です。詳細はテーマごとに院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

当院における泌尿器科領域の低侵襲手術

泌尿器科 神谷 直人

がら、極めて鮮明な画像を得ることができます。泌尿器科・泌尿器腹腔鏡センターでは、医療機器の整備とともに、2010年度に5名の医師が着任し、合計8名(全員が日本泌尿器科学会専門医)のスタッフで診療に従事しております。手術はもちろん、薬物療法・放射線治療に関しても、専門的知識を有するスタッフが、患者さんに最善の医療を安心して受けていただくよう、日夜努力しております。市民公開講座などを通じて、高齢化社会においてますます増加しております泌尿器科疾患に関して、地域の皆様への情報提供を行っております。

外来診療は、月曜日から土曜日(第3土曜日を除く)まで毎日行っております。どうぞ、ご心配な事がありましたらお気軽に受診いただければと存じます。



図：腹腔鏡手術の医療機器(イメージ図)

ここからだのリハビリテーション

リハビリテーション部 寺山 圭一郎

チームとしてリハビリテーションを考えたときに、その主役となるのは、当然患者さんご自身であり、我々はその手助けをするにすぎません。その中でそれが専門性を活かし、患者さんに自立し、生き生きとした生活を送っていただけるよう最大限の力を発揮しています。

現在、当院におけるリハビリテーションの対象は原則として入院中の患者さんですが、我々はチームとして、主役である患者さんに輝いていただき、笑顔で退院していただけるよう日々努力しています。

